

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TOIROAD+岡山校		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日	～	令和8年1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数) 33
○従業員評価実施期間	令和8年 2月 23日	～	令和8年 2月 25日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	中高生世代の方々への支援が継続して提供出来ていること。	これまで同様に大切にしていることはぶれず、専門的な支援よりもまずは信頼関係を構築し、事業所が1つの居場所になることを優先しています。専門的な知見をブラッシュアップするような学習ももちろんですが、職員が利用者様に寄り添うために必要な情報の学習も合わせて行い、職員と利用者様との世代間ギャップを埋める作業も意識して行っています。	・寄り添うというフェーズから一緒に考えて、サポートしながら解決していくという関係が創れるように日々の支援を丁寧に行いたい。
2	「入力」「出力(経験)」の双方を学習し、生活に般化出来るプログラムがあること。	「学習したことが発揮できる」もしくは「必要なことに気づける」という機会の創出をグループ企業の皆様にも理解と協力を頂きながらしております。伝えられて気づく方も多いかと思いますが、やはり経験が生活する力を上げるためには必須だと考えております。成功したときは喜びを共有し、失敗は一緒に改善する伴走型支援で対応しております。	利用して下さる方のモチベーション管理を行いながら経験から学べる支援の創出が出来ればと思います。実行に移していくためにも職員の内部体制を厚く出来ればと考えています。
3	横または縦での連携が図れること。	支援を必要とする方の就労というテーマでは相談できるもしくは経験が出来る機関がグループ企業にあるため、情報交換や支援連携などが出来る環境は整備されている。また障害福祉分野での経験が豊富な職員も多く、様々な経験をもとに助言等を得やすい環境であると考えている。	今ある連携の在り方が正解ではなく、新しいものを生み出していくプロセスを様々な機会に行って行ければと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の情報発信が少ないこと	・気軽に見やすいSNSの活用するためにアカウントは取得しているが、定期更新が行えていない。 ・更新に伴う明確なルールが事業所内で構築しきれていない。 ・情報発信における勉強不足	・支援の内容もそうであるが、情報の発信方法の勉強も行っていく。
2	職員のスキルアップ(経験値の向上)	・職員もまだ未経験となるような事案の発生などもあり、勉強や経験をしながらの中での支援提供であるため。 ・利用者のモチベーション管理や自己理解などに向けた意識付けに時間を要していること。	・研修などに参加して、常に情報のブラッシュアップと自己研鑽を継続すること。 ・社会情勢と合わせて、自分たちの支援を見直す機会を設けていくこと。
3	体制強化	・数ある放課後デイの中で中高生中心というのは珍しく、対応苦慮のイメージや経験不足というイメージが先行している可能性が高い。 ・事業所を知って頂くための機会や情報提供の少なさ	1. と重なってくる部分が多いがやはり知って頂くための機会とイメージのギャップを埋めていく作業が必要であると考えている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TOIROAD+岡山校

公表日 令和8年 3月20日

利用児童数 令和8年 3月20日 52名

回収数

33名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	10	15	3		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	18	9	3	3	他事業所と比較すると少ない気がする。 バタバタしている印象がある。	より良い支援に繋げられるようにサービスの拡充や人員の補充はかけていく予定です。合わせて私たちの仕事が魅力的に感じて頂けるような情報も発信します。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく備えられた環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29	2		2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	8		3		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	6		4	窓口(担当)の方が揃っている相談等がしにくいので解消して欲しい。	少しずつですが、どの職員でも様々な対応が出来るように共有を図っていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	8		5		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	26	1		6		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	5		9		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	3		8		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	7		8	飽きないように色々と工夫をして下さっていますが、欠席ではなく行きたくなくなる場所を目指して欲しい。	皆様にとって寄り添える場所をまずは目標にして支援を継続していきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	17	3	8		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30	3				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30	1		2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	4	5	8	数回ではなく計画的に複数回実行して欲しい。	テーマに関してはご意見を頂きながら、そういった機会が今年度以上に持てるように対応をしていきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	17	10	5			
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	5	10		面談の回数や対応の時間など増やして欲しい。 いつも丁寧に適切な助言を当事者だけでなく、教育機関にも働きかけて下さるのは有難いです。 進路などの相談はなかなかしにくいので、地域の情勢や本人の特性にあった場所を評価して下さるのはありがたい。	可能な範囲で要望に応じられるように、そして限られた時間の中でも納得して頂けるような話になるように研鑽をしていきたいと思っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28	5				
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	6	6	5	土日など参加しやすい時に開催をお願いしたい。 興味のあるテーマではなかった。	こういった機会を設けることが出来ないのが現状ですので、可能な範囲で多くの方が参加出来るようなスケジューリングを行っています。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	4	5	3	思春期なのでどうしても反抗期などあり、色んな役割分担をする上では非常に役立っている。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	6	4	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	7		11		確認が出来る場所などを明確にし、多くの方に拝見して頂けるように準備をしています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	5				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	5				マニュアルの説明までは行うことが出来ていないので、内容を把握できるように努めています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	5		4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	5		4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	32	1				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	30	1	2			
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	27	3	3			
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	5		2	難しい対応をして下さっているのは分かりますが、職員によって支援の差があるので、そこは改善して欲しい。	職種、経験等異なる職員がいる中で共育を行いながら少しずつ質を高められるようにしていきます。次年度からは共育の部分で研修の内容や回数等をブラッシュアップする予定です。貴重なご意見ありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		TOIROAD*岡山校				公表日	令和8年 3月 20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			きめ細やかな、そして質の高い支援をお届けするためにも増員は必要だと考えております。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内での研修に加えて、他職種参加での法人研修。外部研修への職員参加など積極的に行っている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		トップダウンだけではなくボトムアップで色々な職員でプログラム立案に参画出来るような仕組みを構築しています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		継続することも必要なので、いかに必要性を感じて取り組んでいただくかという部分に着眼点はおいて支援に関わっています。	工夫はしているが思春期の世代にメニューを合わせて立案することに関しては苦慮しているので、もう少しバリエーションが広がるよう情報収集を行ってきたい。		

児 供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		意識して活動に取り組みたり、計画の中に盛り込むように出来るようになってきています。中には選択することが難しい方もいらっしゃいますが、配慮しながら自己選択の機会を提供しています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			体制整備出来ているが実際の動きに繋げることが出来てはいない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		左記のようなケースはないが、他事業所からの変更や併用利用の際には他事業所と支援の方向性などを調整することがある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		ケース会議などがあれば参加もしくは参加が難しい場合には支援経過をまとめたものを書面で情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			具体的に動かれている事例を勉強させて頂くことから始めたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		管理者だけでなく一般の職員にも地域を知って頂く動きとして参加出来るような仕組みにしたい。	定期的な参加が行えていないため、次年度は積極的に参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		助言等を行う際には生活する環境を理解し、負担の大きくない対応選択するようにしています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		年間計画を立てて、何らかの形で対応が出来ればと考えています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			発信をもっと計画的にして発信を行っています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人で行う研修に加えて、外部研修への参加など多くの職員が参加し学べるようにしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在そういったケースはありませんが、対応の必要がある場合には速やかに必要な対応および改善策の動きを図っていきます。	